

岐阜信金、創業の地に交流拠点

「夢創り叶える場に」

概要発表 来年2月着工へ

岐阜信用金庫(岐阜市)は15日、創業の地となる岐阜市神田町の旧若宮町支店跡地に、地域のにぎわい交流拠点を整備すると発表した。「地域・人・企業の夢を創り叶える場所」をコンセプトに、市民が交流できるパブリックスペースなどを設ける。来年3月に迎える創立100周年の周年事業に位置付けており、2025年4月の開業を目指す。

(松浦健司)



㊤「G's Dream」の完成イメージ図

㊦1953年に完成し、今年8月に取り壊しを終えた旧本店(旧若宮町支店)＝1959年(いずれも岐阜信用金庫提供)



名称は「G's Dream(ジーズドリーム)」。620平方メートルの敷地に延べ床面積838・85平方メートルの鉄骨3階建ての建物を整備する。来年2月に着工する計画。

公表されたイメージ図によると、1～3階まで吹き抜けで、ガラス越しに活動の様子が外から見える開放的なつくりになっている。内装の壁、柱、天井に県産木材を多用し、木質感が漂う心地よい空間とする。

金融窓口業務の機能は設けず、1階は絵画展やコンサートを開催できるスタジオを整備し、イベントがない時は交流スペースとして開放する。2階は資産運用など個人のライフステージに合わせたアドバイスや、事業者向けにコンサルティングを行う相談スペースを

設ける。スタートアップ企業のセミナーやビジネスマッチング、商談会の開催も想定している。3階は職員の研修などモチベーションを高める場にした考え。同金庫の前身は、192

4年に設立された二つの信用組合。合併して40年に誕生した岐阜信用組合が本店を構えたのが、この「創業の地」だった。51年に岐阜信用金庫に改組。若宮町支店は昨年11月に移転し、現在は更地になっている。

岐阜信用金庫の担当者は「創業の地にふさわしいシンボリックな拠点を建設し、次の100年を見据えた持続可能な社会の実現に向けて取り組む」と話した。